

## 試験研究成果普及情報

部門	資源管理・増養殖	対象	研究・普及
課題名：房総周辺海域におけるカタクチイワシ沿岸加入群の回遊機構の推定			
<p>[要約] 房総沿岸海域で秋季（10～11月）に漁獲されたカタクチイワシ0歳魚の発生時期は、資源が低水準期にある2017年、2019年は主に8月で、2017年の0歳魚は駿河湾～熊野灘の黒潮内側域に産出された卵に由来すると推定された。この結果を現行の漁況予測手法に活用するとともに、今後は海況予測モデルや粒子追跡モデルを組み込むことで、より高度な来遊量予測が可能になると考えられた。</p>			
フリーワード <sup>※</sup> カタクチイワシ，0歳魚，漁況予報，まき網			
実施機関名	主 査 水産総合研究センター 資源研究室 協力機関 東京大学大気海洋研究所，茨城県水産試験場，神奈川県水産技術センター，静岡県水産技術研究所，愛知県水産試験場，和歌山県水産試験場，高知県水産試験場，大分県水産試験場，宮崎県水産試験場，鹿児島県水産技術開発センター		
実施期間	2017年度～2020年度		

## [目的及び背景]

千葉県では、カタクチイワシは周年漁獲される主要な魚種である。本種の資源量は数十年規模で大きな増減を示し、現在は低水準期に入っている。低水準期には沿岸海域を育成場とする「沿岸加入群」が漁獲の主体になることが知られている。この沿岸加入群（0歳魚）が房総周辺海域に来遊する10月以降の来遊予測を行うため、その発生時期と発生海域を明らかにした。

## [成果内容]

- 2017, 2019年に漁獲された0歳魚の耳石日周輪から、日齢は55～158日齢と推定され、8月生まれの個体が主体であった（図1）。
- 2017年に房総海域で漁獲された0歳魚と太平洋岸の各県地先で得られた仔魚について、15日齢までの成長履歴を同じ発生時期の群で比較したところ、高成長群（愛知県，静岡県，大分県産仔魚）と低成長群（茨城県，高知県，宮崎県産仔魚）に分かれ、房総海域で漁獲された0歳魚は高成長群であった。
- 同様に耳石微量元素組成では、房総海域で漁獲された0歳魚は静岡県産仔魚と類似していた（図2）。
- 房総海域で漁獲された0歳魚は駿河湾～熊野灘の黒潮内側域に産出された卵由来であることが示唆された。

[留意事項] なし

[普及対象地域] 九十九里地域，外房地域

[行政上の措置] なし

[普及状況] なし

[成果の概要]

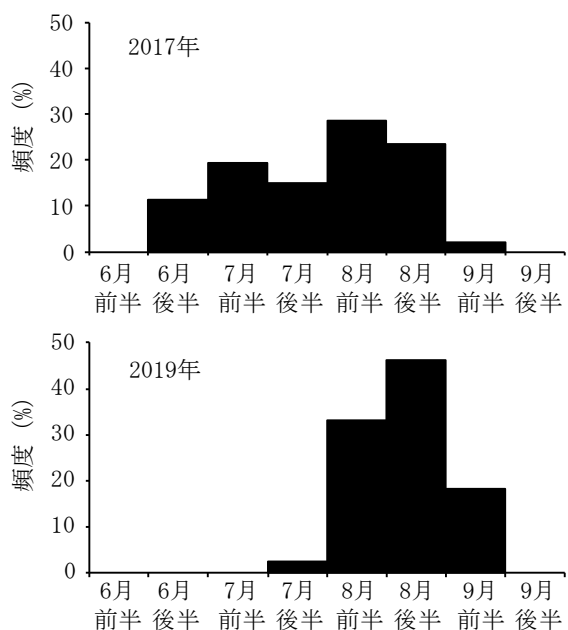


図1 房総海域で2017, 2019年10~11月に漁獲された未成魚のふ化日組成

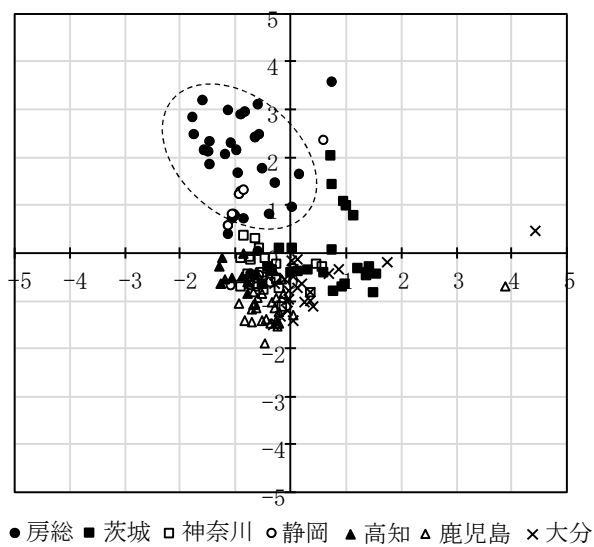


図2 耳石の微量元素組成による主成分分析の結果  
プロットが近いほど、組成が似ていることを示す

[発表及び関連文献]

耳石日輪解析による太平洋沿岸のカタクチシラスの成長比較, 令和元年中央ブロック  
資源海洋調査研究会, 口頭発表